

TMR 施設事例 3

徳之島町 TMR センター（事例：飼料用サトウキビを活用した TMR）

南西諸島はサトウキビと畜産が主要な産業で、特に繁殖牛と育成牛を飼育する肉用牛繁殖経営が盛んで、全国の13%の肉用子牛が生産されています。しかし、島の畑地面積は狭く、自給粗飼料を十分に確保できないことが問題になっています。

徳之島は南西諸島の奄美群島で最も肉牛飼育頭数が多く、南西諸島の中でも自給粗飼料が不足している地域です。そのため、一部農家では冬期の飼料として繁殖牛にサトウキビのハカマ（サトウキビの収穫残渣）やバガス（サトウキビの絞り粕）など栄養価の低いものを与えています。そのことが、この地域の繁殖成績を下げている原因の一つともいわれています。そこで、年間を通じて栄養価の良い飼料を供給するため、徳之島町 TMR センターが設立されました。このセンターでは繁殖牛用と育成牛用の TMR を生産し、島内の畜産農家に供給していく予定です。

徳之島町 TMR センターの特徴は自給粗飼料として飼料用サトウキビなどとともにバガスやハカマ、濃厚飼料と

して黒糖焼酎粕や糖蜜などを利用していることです。飼料用サトウキビは九州沖縄農研が開発した飼料作物で、生産力が高く、台風や干ばつに比較的強い特徴があります。これまでに鹿児島県や沖縄県と協力し、栽培方法やサイレージ調製、給与技術の検討を行い、繁殖牛だけでなく育成牛や搾乳牛にも飼料用サトウキビを利用できることを明らかにしてきました。現在、九州沖縄農研は鹿児島県および徳之島町と連携しながら飼料用サトウキビと副産物を混ぜた TMR の開発をしています。

徳之島町 TMR センターは始動したばかりですが、今後、国産飼料を安定的に供給できる重要な施設になるものと考えています。この取り組みが南西諸島に拡大し、島の自給飼料不足が解消することを期待しているところです。

【畜産草地研究領域 神谷 充】



飼料用サトウキビの栽培圃場



徳之島の畜産農家の畜舎



TMR 作製作業



調整してできあがった TMR